

進路だより



福島県立いわき総合高等学校
進路指導部
令和3年 9月30日(木)
第4号発行

受験シーズンの到来！

☆推薦入試が始まります！

やや暑さが感じられる日があるものの、季節はすっかり秋めいてきました。就職試験に続き、上級学校の推薦入試のシーズンを迎えます。

9月1日から多くの専門学校のAO入試の本出願（エントリーは6月から開始）、大学の総合型選抜の出願が始まりました。現在本校では、59名（大学12名、短期大学3名、専門学校44名）の3年生がエントリーまたは出願を行っています。そして10月1日以降を目安に専門学校の推薦入試の出願、11月1日以降を目安に大学の学校推薦型選抜の出願が始まります。入学願書、志願理由書、面接の練習、小論文の添削指導等、放課後教室に残って本格的に取り組む様子が多く見られます。ここから年が明けてからの一般入試まで道のりは長いですが、3年生全員が目標を実現できるよう、力を合わせていきましょう！

○進学希望者が取り組むこと

受験先の「学校について」「出願について」よく知ること。学校によって、また受験方法によってすべてが異なります（1・2年次生のために参考）：Web登録があるかどうか、紙の要項があるのかデジタル版の要項のみなのか、受験料は銀行振り込みなのかコンビニ決済か郵便為替か、専用の封筒があるのか自分で準備するのか、書類は郵送かレターパックか、当日必着か消印有効か、など）。**要項をよく読み、自分で準備を進めること。**

自分の受験です。学校推薦型選抜の受験者は、学校の推薦を受けて受験する責任を理解し、他力本願にならない。十分に自覚を持つことが最低条件です。

①志願理由書、学修計画書、活動報告書等の作成

出願書類は多岐にわたりますが、ほとんどの学校では志願理由書を書いたり、入学願書の裏に志望動機を記入したりします。また、大学では「学修計画書」を作成するところも増えています。面接でもそれらに基

づいて深く問われることが多くあります。「進路だより」をじっくり読んでくれたことと

と思いますが、3年生はもちろん、1・2年生も、「何」を知っておかなければならないのか、今できる「何」に取り組んでおくべきなのか、よく考えておく必要がありますね！



Q：学修計画書とは？

入学後の具体的な学習プランです。目標とそれに向かうプロセスを書く。何のためにその大学で学びたいのか、どのように学びを進めていくのか。学校についてしっかり理解していないと書けません。

Q：活動報告書とは？

高校で何にどのように取り組んできたのか（部活動や生徒会活動、資格取得やボランティア活動など）を書きます。成果獲得に向けた努力のプロセス等を具体的に書くことが求められます。何もしていないと書けません。

②面接練習

集団面接・個人面接、口頭試問（←小論文や学科試験がない学校はこれがあります）、集団討論等、学校ごとに違いがあります。過去に同じ学校の受験者がいれば、進路資料室に受験報告書がありますので参考に。

「何を学びたいのか」「なぜそれを学びたいのか」「どうしてその学校なのか」「他校とは何が違うのか」「どのように学んでいくつもりなのか」「卒業後の進路はどう考えているのか」。また、学びたい分野について、ある程度理解した上で志願しているのかも問われます。伝わるような話し方なども含め、練習して臨んでください。

（質問事項等は進路の手引き本編p26～28も参考にしてください。）

10月26、27日、11月4、5日に学校推薦型選抜での進学希望者を対象に模擬面接を実施します。予想できる質問に対する答えは自分なりにまとめておくこと。また、礼法等を確認した上で臨みましょう。

③小論文添削指導

学校推薦型選抜や総合型選抜に挑戦している人たちの多くが試験に小論文を課されています。すでに過去問を利用して添削指導を受けている人もいますが、思うように書けなくて苦しんでいる人が多いようです。各指導担当の先生から伺っているとは思いますが、どのようなテーマであってもある程度自分で決めた1つの型に当てはめて書けるようにするのがコツです。そして、試験日までの間に最低でも4～5つの作品を完成させることを目指してください。いずれにしても文章を書くことに抵抗が無くなるまで練習することが大切です。

小論文を書く力は、よく「生きる力」と言われます。自分の考えを文章にして論じる訳ですからまさにその通りだと思います。受験対策の一環ではありますが、指導を受けながら「生きる力」もしっかりと身に付けてほしいと思っています。



（そして当然ですが）④勉強

「進学を希望する」つまり「もっと勉強したい」、と考えている人たちに必要なのは「勉強に向かう姿勢」です。「今はやっていないけど、進学先では好きなことだから頑張れます」なんて甘い話ではありません。「勉強の仕方」「基礎的な学力」などを身に付けておくことが必要です。入学はできるかもしれませんが、ただ入学するだけでは高い学費がもったいない！

一般入試にしぼって勉強中の人は今頃必死だと思いますが、それ以外の3年次生も気は抜けません。看護学校の推薦入試は高倍率。大学によっては総合型選抜、公募制推薦も高倍率です。学科試験に向けた勉強をストップさせるわけにはいけません。この時期でもまだ手を抜いている2年次生、まだ遅すぎはしません。学習習慣もそうですが、資格取得等にチャレンジするなら今！（資格によっては入学の条件になったり、学費の減免の対象になったりもします！）1年次生、早いほど◎。早く気づけた人が一歩リードです。

<卒業生の言葉（勉強編）>

- 予習復習の大切さが身に沁みています。こんなに大変なんですね。（国立大学生）
- なんとかなるかと思っただけでありませんでした…。頑張ります。（単位を落とした大学生）
- 日頃から勉強をする習慣がなかったのですが、コツコツとやることの大切さを知りました。（留年した大学生）
- 勉強漬けです。受験勉強に慣れておいてよかったです。（看護学校生）
- 資格の勉強で朝から晩まで〇〇棟に入り浸っています。（大学4年生）
- 朝から晩までこんなに勉強してるの生まれて初めてかもしれません。バスの中でも勉強してます。（専門学校生）

○1・2年次生のみなさん&3年次生へ

この時の3年次生の担任の先生にとって最も大変な仕事は「推薦書の作成」です。3年間の皆さんの生活を振り返って、長所や実績をまとめ上げるのです。どれだけ大変か想像できますか？それがクラスで20人もいたら、どれほど大変か……。ですから皆さんは担任の先生が推薦書を書きやすいように、ポートフォリオを活用し、1、2年生のうちから、部活動の実績や取得した検定名、あるいは参加したボランティア活動等を正確に記録してください。先生方は普段厳しい事を言っている、皆さんが合格できるように一生懸命考えて作成しています。推薦書の内容に見合った人物でいてください。「自分は就職だから、AO入試だから関係ない」というのは大間違いです。受験に必要な「調査書の作成」も同様に大変なものです。担任の先生に感謝の気持ちを伝えましょう。

○進路が内定したみなさんへ

会社へお礼状は出しましたか？入学手続きは進んでいますか？お世話になった先生に報告しましたか？これから受験する人たちの前で遊びや自動車学校の話をするのではなく、面接練習などのサポートをしてあげられると素敵です！卒業までの間、思いやりのある行動をとってほしいものです。また、内定したからといって勉強の手を抜かないように。入社・入学前、入学前に「成績証明書」の提出を求められる場合もあります。今はあくまでも「内定」だということを忘れずに。



★次号の予告（12月）

就職試験の状況と看護学校等を一般入試で勝負する人たちへのワンポイントアドバイスを掲載予定です。